

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>昨年の外部評価でのアドバイスを参考に、もっと利用者様やご家族にとって身近に感じられ、理念を踏まえて実践する職員が振り返りやすいような理念にと見直しをし、ご家族へのアンケート、利用者様に日頃の会話の中から意見を頂き、職員全員からアンケートを実施し、話し合って平成21年4月1日より新しい理念にした。今後も理念を私たちの基本となるよう、意見交換を現場で適宜行い、より自分たちのものとなるよう、毎日の実践に活かされるように進めていきたい。新理念は覚えやすく且つ入居者様、職員ともに共有できるもの</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>昨年理念を全体で見直し、入居者には日々の会話の中から、ご家族、職員にアンケートを実施し、毎朝、意識して日々のケアに実践できるよう全ユニット合同でのミーティングをとおし取り組んでいく。ホームの理念は入社時研修で各自説明を受けている。今後も理念をかかげただけで終わらないよう実際に活かされてこそ意味があるものと管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合い、実践が理念にもとづいたものになるよう日常的に取り組んでいく。また、ケアプラン立案時は目標に取り入れて考え、1日のかかわりケアの中で念頭におき取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>パンフレットに記載、待機者、入居の際にお渡しし、説明同意している。運営推進会議や地域の会議等でホームの取り組みを伝えたり、ホームとして地域の現状を理解し、地域の中で暮らし続ける為の取り組みについて、現状と今後について意見交換しあい取り組んでいる。運営推進会議に地域の人により多く参加するよう、関係を作ってきた。又入居者の地域活動への参加として地域町内会の花壇手入れに参加する機会をもてた。</p>	<p>○ 新理念になって日が浅いため、今後地域やご家族へ発信しより理解を得られるように、地域活動への参加を積極的に増やしたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員は通勤時、入居者とゴミだし、散歩の際近隣住民と挨拶を交わしている。また花や畑を見せていただいたり、届けてくださることもある。回覧板をまわしていただいている。回覧板にグループホームの役割、相談窓口であること、取り組み等を紹介する機会取り入れている。また防災訓練に近隣の方がいざというときに助けてくれるような、地域との連携を強化できるよう参加してもらい取り組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5	3 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の 一員として、自治会、老人会、行事 等、地域活動に参加し、地元の人々 と交流することに努めている。	町内会に加入し回覧板や町内の会合に出席することで情報交換を行っている。町内会の行事、地域の事業所の行事や盆踊り等へ毎年参加することで、交流の機会になっている。また近郊在住の職員採用が多く、職員の繋がりから増えた地域交流もある。昨年は8月に地域のいきいきサロンと児童会館の「流しそうめん」に参加させていただいたり、町内会の花植えに参加させていただいたりと交流機会が増えている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業 所や職員の状況や力に応じて、地 域の高齢者等の暮らしに役立つこと がないか話し合い、取り組んでい る。	入居者の支援を第一に考えつつ、取り組みとして、厚別区社会福祉協議会主催の青葉地区住民に向けた「認知症対応講座」に劇団員として、もみじ台地区では管理者が講師として、地域で認知症の方がより住みやすくなる為の対応の仕方、認知症の方の想い、グループホームも相談窓口であること等をお伝えする機会をいただいた。今後も地域の他事業所や地域の方と情報交換、連携を図っていき、ホームからアナウンスして積極的に取り組んでいきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	4 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年全職員に配布し職員の意見を取り入れたり、課題を全体会議で投げかけ、職員全員にそれぞれの意見を求め、話し合っており取り入れている。「運営推進会議を生かした取り組み」についても福祉部長さんが構成員となったり、構成員ではない家族さんに参加していただいたり、管理者、主任だけでなく運営者や職員が参加することで、より組織の意識強化、また地域との繋がる機会が増えている。		
8	5 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に1回開くよう努めており、出来ている。地域からとして、町内福祉部長に参加していただいている。より地域の高齢者の実情や取り組みも分かるようになった。また経営者自身が会議に出席するようになり、出席できない時は報告し、出た意見を伝達し運営に役立てている。ケアスタッフも参加し運営会議での意見交換に参加できるよう可能なときはシフト調整、会議後議事録はファイルとして閲覧できるようにし、会議でも伝達している。今後も参加メンバーが多く積極的な会になるよう取り組み、サービス向上に活かしていきたい。		
9	6 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	主に管理者が主体となって、札幌市、区担当者、区保健師、社会福祉協議会等と電話や行き来して、随時相談、情報交換し、向上に取り組んでいる。生活保護受給者の方は区の担当者で連絡を取り合ったり、実施指導を通して、センター方式のシート活用について見ていただき意見をいただく機会もあった。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は職員が学ぶ必要性を感じる。全体会議で学ぶ機会を作り、制度について事例と現入居者で利用の可能性のあるケースを伝達したり、職員が閲覧できるように、情報を各ユニットに設置している。また、必要時には制度が利用できるよう準備している。今後も情報やパンフレットを掲示したり定期的に学習機会を継続していく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束防止委員会で「高齢者虐待防止関連法」について勉強会を開き、理解を深め職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、ニュース等を材料に管理者や主任からその都度職員へ情報を伝えたり、職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作りにも努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加しその都度伝達講習をしている。資料を事務所にファイルとして常備しいつでも繰り返し閲覧できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談から入居準備、入居の流れの中で、また、契約時は読みあわせを行い具体的な説明をしている。その流れの中では理解しきれていないことも多いので、入居後もその場にあわせて適宜説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に関して利用者が直接あわせる会議等は設けていないが、生活の中で、それらに関わる話題、要望等を聞き取りしたり、意見、不満、苦情が出た際も迅速に対応し、直接事務所で話したり管理者へも意見を言える環境にある。事務所が開放されて、入居者が自由に出入りできるようになっているため、表しやすい。経営側がホームに足を運び入居者の暮らしぶりや職員の雰囲気をごまめに見ていっている。		
14	7 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月スタッフで構成する広報委員会が生活の様子の写真をのせた広報誌『ほほえみ』に担当スタッフから入居者一人ひとりの生活や近況を報告している。そのほか必要時は電話で、面会時にもホームでの入居者の暮らしぶりや変化を個々のケースに合わせて報告を細やかに行っている。また、ホーム全体の動きや運営、職員の異動については、管理者が『青葉通信』というミニ新聞を作成しご家族へ事前にお知らせ、会えたご家族には職員から挨拶をしたりと適宜行っている。体調不良時・検査等内容等の状況にあわせ、往診時に同席していただき、直接主治医から説明をうけることもある。		
15	8 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、主任が主に窓口となっている。運営推進会議の場や面会、又は必要に応じて適宜連絡し、疑問や意見、不満等がないか汲み取り運営につなげている。また苦情になる前に対応するよう普段の関わりに配慮して、信頼関係作りに取り組んでいる。玄関に意見箱を設置。時々、管理者やホームからアンケートを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員には定期的または適宜(主任や管理者の判断)で面談を行っている。運営者、管理者は働く職員の意欲の向上や質の確保のため、事業所の運営や大事な決定事項など適宜伝達し、全体会議や日頃のかかわりから主任や職員からの意見を聞く機会を設けるようにしている。日頃現場で挙げた意見は、主任が管理者に報告している。意見が反映可能かどうかを見極め、運営に役立てている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事、お誕生日、病院受診時、その他必要に応じて職員の配置を通常より多くしている。またその他、入居者の状況に出来る限り対応出来る様臨機応変に対応している。また、急な受診や外出時には勤務者で相談し業務調整をしたりと対応し、付添を行っている。		
18	9 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし	経営者、管理者は異動や離職によるダメージが利用者の生活に響いてしまうことを理解している。異動の際は慎重に見極めている。経営者は職員が安心して働き続けられるよう、待遇等の見直し、改善、職員への説明等を行っている。また管理者、主任は職員が給与面だけではなく希望を持って安心して働き続けられるような、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。異動があった場合は、異動した職員が会いに来たり、入居者が遊びに行くことで新たな関係作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 10 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者は地域密着型サービスの従業者として職員の要望を取り入れて社内研修委員会を推奨し、定期的に会議を開いて話し合い、研修のあり方から企画実施まで行っている。入社年数や経験に合わせた研修計画を立て行っている。入社から年数、段階に応じた社内研修のカリキュラムを設定し、機会を作っている。また、新人職員へはのOJTシートを作成し、相互に理解状況を把握し、コメントや実施内容を共有することで安心して働ける様にしている。その他OFF-JTに参加する機会を作り専門的な研修をうけることもある。他の厚別区のGHと協働しての研修等も多く取り入れている。また、日頃から会話声掛けし、必要時は面談も行っている。ケアの視点を養うためにセンター方式を使用したり、フロア会議等で専門的な知識が得られるよう、ミニレクチャーをしたり、職員に合わせて必要なアドバイスしている。		
20 11 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GH協議会主催の研修へ参加する機会がある。社内研修で、また厚別区GHとの合同でお互いに見学したり、研修で意見交換、一緒に学ぶ機会を作っている。地域(青葉地区)の交流の機会として、地域の他事業所の花見行事や野外音楽会に参加させていただいたり、地域で主催して行う、認知症対応講座等に協力参加させていただく機会も増え、相互に情報交換ができるようになってきている。これらの活動を通じて少しずつ地域に認識されてきていると感じる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は定期的にホームへ足を運び職員へ話しかけている。管理者、主任は日頃から職員に話しかけたり、委員会や会議の場でも意見しやすい環境作りに配慮している。職員の親睦会や職員同士で贈り合う「サンクスカード」を推奨し取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者はその時のホームの状況等に合わせた話を、全体会議でしている。また、資格手当をつけたり、資格取得のために勤務調整や講習会の開催、情報を提供し、支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	当フロアーでは1年間新入居はないが、ホームに対する入居相談の際や、事前面談では親身にお話しを伺い受け止めるようにお話している。また入居者のご家族の知人や他のご身内の相談なども応じている。入居に際しては自宅、施設に訪問した際、本人、その家族の方と面談し趣味、生活歴など自然な会話のなかからききだし情報を収集している。ホーム生活の予測できる範囲でのダメージとその対策も具体的に説明(お互いの信頼関係作り、役割作りなど)している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	当フロアーではこの1年間新入居はなかったが、相談以降も入居前までの間のホーム見学や相談を随時受け付け不安や心配な点についてお話を伺うなどしている。いつでも電話相談や気軽に声をかけていただき相談できるように説明している。その人に合った椅子の検討、工夫を実施し滑り落ちの予防を行う等、対応をプランにも盛り込んでいる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当フロアーではこの1年間新入居はなかったが、初期対応時には本人のみならず、家族関係等の状況についても可能な限り伺い現状把握に努めている、またケアマネージャーや相談員との面会や電話・書面にて情報交換して対応をしている。		
26	12 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当フロアーでは1年間新入居はなかったが、リロケーションダメージを考慮しつつ自然に徐々に馴染んで頂けるよう場の雰囲気や他利用者との関わりに配慮し安心して納得してサービスを受けられるよう段階的な計画作成をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
27	13 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	9名各々の時間をお過ごしです。全体で揃って行う活動以外でも、短い時間であっても1対1でのリハビリを実施したり、ポスター作りを行ったり、創作活動の様子や進行状況をお伺いしお手伝いさせていただいたり、中国語を教えていただいたり、入居者様各々の楽しみや好みにあわせ、学び・支えあいの関係を築いている。また、センター方式D-5振り返りシートをケアプラン評価月には定期的に全員でシートの記入をし、日頃のかかわりについて振り返り評価している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月1ヶ月間の生活の様子を各担当スタッフが記入し報告、また検査や受診結果について、日々の取り組みやケアの変更なども、適宜電話連絡し情報共有したり、また面会時には日々の様子などを居室や和室で入居者やご家族とともに職員も過ごし報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	面会の期間が開いているご家族には、面会前に様子や症状を事前説明させていただくようにしている。面会のご本人の居室や落ち着ける場所で、ご家族、ご本人共に安心し、よい関係、良い面会時間をもてるように配慮している。また面会中にもスタッフが時々様子を伺い必要時はコミュニケーション支援も行うよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも事務所から必要時ご家族へ電話をかけている。また、日常会話の中でも、各々の馴染みの人の名前や土地の名を用いたりし関係や想いが継続できるよう支援している。ご家族の協力をえて馴染みの場所へ外出や昔の写真やハガキ等をいただき会話を持つなどし、関係や想いの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎週日曜日午後から入居者様主催の歌謡曲の会を催している。専用の歌本を作成(入居者個々の得意・好みの曲を選んで盛り込んだ本)、職員がサポートしながら実施し入居者さま同士がふれあい、良い関係性のとれる時間となっている。また他の階へ訪問して職員や入居者の皆さんへ届け物をしたり、日常的な挨拶や握手、コミュニケーションをとったりとホーム内でもかかわりあいをもてるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了したご家族へは終了時に説明や言葉かけをしている。入院した場合には、職員でお見舞いに行く等関わりを持つようにしている。契約終了後にも、ご家族がホームへ来られたり、知人や関係者を連れてホームに見学にくる方もいっしょにやる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	14 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者各々に職員1名の担当制をとっており、かかわりに責任をもっている。入居者様から出た意見や要望についてはその場で職員や必要時入居者様をまた毎日の申し送り時、定期的な会議(モニタリング会議・サービス担当者会議等)で日頃の話し合いや会話・かかわり、記録物も含め会話や行動から要望や想いの汲み取りを行い、話し合っている。希望や思い、要望の内容が直ぐには実現困難な場合は本人やご家族と時間をかけて相談し実現へ向けて互いに協力して努力する。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当の職員がセンター方式の更新を行っている。ここに深く関わり得た情報はスタッフ全体で共有しケアに活かす等している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録の用紙を各々に合わせて作成し、記述ばかりではなく、時間経過グラフを用いる等1日の過ごした様子や気分等がわかりやすく工夫している。温度版も別につけており、血圧の変動や体重、排便状況や内服、食事摂取量などを総合的に記入し、症状や不調の早期発見に努めている。まら、モニタリング時はセンター方式D-4シートの記入を行い、定期的に24時間での暮らし方を把握変化についても把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
36	15 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	現在は、月に1回モニタリング会議を実施。スタッフが各々担当入居者を持ち、1ヶ月の経過やケアについてモニタリングし発表、プランの内容や実施状況、また想いや要望について話し合いを持っている。また、本人の言葉を多く取り上げられるように記録し、ケアプランに反映している。新しい発見や話し合いで出た意見・アイデアは直ぐに実施し、ご家族の協力や理解をうけながら経過を、次回モニタリングで検討。立案前のアセスメントにはセンター方式シートを活用してスタッフ全員で記入、チームで集めた情報の中からニーズを抽出しプラン立案へ反映している。		
37	16 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身状況の変化、早急に必要なケアが生じた場合は介護支援専門員(計画作成者)、各担当者と相談し対応や新たなケアを立案、家族にも報告し介護計画の見直し、ケアプランへ追記をしたり、ケアチェック表を活用し短い期間での実施、モニタリングで評価を行いプランへも反映している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	一人一人の介護記録用紙をケアプランに即して作成し改善、記録用紙も定期的に見直し現状に即したものと変更している。ケアの実践結果や様子を把握しやすいよう1日の過ごし方や様子をグラフ化したりと工夫、発言や想いを多く記入しやすいように取り組んでいる。介護計画の見直しやモニタリング時に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	17 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況、意向は固定したものではなく、常に変化すると念頭に置き、その時々々の本人と家族の状況や要望、暮らしを守るために、相談し合い柔軟なケアを心がけている。また、地域の事業者と連携を図り、在宅で暮らす方の協力が出来ないかどうか、可能な範囲で話し合ったり、行事にお誘いしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署との協力で、消防署員や地域の少年消防クラブのクリスマス訪問をうけ、手作りクリスマスカードのプレゼントをいただき皆さん喜ばれていた。ホームむかえに青葉小学校があり、運動会の見学、町内会福祉部主催の地域高齢者と小学生の流しそうめん交流会への参加、児童会館からはハロウィン仮装訪問をうけその際は地域担当の警察官も同行訪問していただき地域の様々な機関との双方向で協力が増えてきている。居間の窓からは小学校とグラウンドが一望でき、子供たちの遊ぶ姿が見られる。運動会時には、特に喜ばれ楽しみにされている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他のケアマネージャーやサービス事業者とは地域の交流機会にお話をし情報交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの方が運営推進会議に出席して下さっており、以前より相談がしやすく協働して取り組める状況や関係性になっている。年数が経つにつれ権利擁護事業利用等の検討の必要性が出てきており、地域包括に相談することもある。今後も更に協働して、認知症の方が住みやすいネットワーク作りに努めていきたい。		
43	18 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	医療機関は入居者やご家族の希望に併せており、継続して馴染みの医師にかかれる様、協力して行っている。ホームにも看護師がおり、週2回出勤し馴染みの関係で気軽に症状等を相談できている。協力医療機関である聖陵ホスピタルでは、2週に1回往診があり、外来看護師が同行し、入居者の状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。ご家族も往診に立ち会っている時には経過を説明して下さったり、受診や検査時体調等を考慮して下さったりと、気軽に相談できる関係を築いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関である聖陵ホスピタルでは、グループホーム等様々な高齢者施設の往診診療を行っている。認知症に関する診断や入居者の生活や関係性等症状にとどまらず詳しい状況まで細かに耳を傾けて下さり、診療熱心で適切な指示や助言をして下さる。また個々に信頼し相談できる専門医療の個別受診をされている方もおり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制による看護師を確保しており週2回出勤し健康管理把握、スタッフとの情報交換で連携をとっている。24時間オンコール体制で相談可能、こまやかな関わりや情報収集連携で今まで以上に入居者一人ひとりに合わせた相談がしやすい体制となった。協力医療機関である聖陵ホスピタルの外來担当看護師が窓口になり、入居者一人ひとりの状況を把握し、入居者の中には看護師さんと顔なじみの信頼関係が出来ている方もいる。受診や検査時も入居者の体調や症状等を考慮して下さったりと、気軽に相談できる関係を築いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期入院は入居者にとって精神的、肉体的に大きなダメージとなる。早期から可能な限り介入し、家族や医療機関と情報交換したり、顔なじみの職員の見舞い、また家族に同意頂いた方は、ムンテラに同席させてもらい、家族、病院、ホームの方向性を合わせて、退院に向けたアプローチを個別に行っている。また現場職員へ情報伝達し退院時からの取り組みを話し合い、退院してきても統一したケアと細やかな観察が出来て、医療や家族と連携できるようケアプランにも立案し取り組んでいる		
47	19 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期について、かかりつけ医とご本人または家族、当ホームと話し合いの場を出来るだけ早い段階から持ち、入居者、ご家族の意向、また当ホームで想定できる可能な限りの介護、関係医療機関との連携を相互に確認し、支援を行っている。病院等の他機関へ移転する場合も、移転先の機関への引継ぎ、継続的な利用者及び家族への支援を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度、終末期の利用者が安心、安全に暮せるよう、その時の他の入居者の状況や、家族、職員の状況等を相互に検討し、事業所として「できること・できないこと」を一つ一つ見極めて行っている。また、医療機関の協力もその都度確認しながら、本人を取り巻くチーム全体がそれぞれの役割を理解して、チームが戸惑うことのないよう、その人の終末期をよりよく支えられるよう話し合っている。長くホームで暮らし続けられるよう、細かにご家族・医療機関主治医看護師と情報交換、連携を密にし取り組んでいる。入居年数が長くなってきている方に対しても、今後ご家族に確認の話し合い機会をもてるように継続していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅へ戻られたケースはないが生活の様子や過ごし方等にご家族と情報交換を行っており、もしそのような状況が出来れば共同して取り組みたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	20 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ホーム新理念にも『誇りを持って私らしく』と、うたっており常に念頭においてケアに取り組んでいる。言葉かけは一人一人に合わせた言葉や話し方で行い、尊敬の気持ちをもつての対応を心掛けている。記録時や実習生指導、書類管理等も個人情報の取り扱いに充分注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	要望と大きな枠のみにとらわれず、日常生活の中で、食べ物や飲み物、着る洋服や、その時過ごしたい場所等、相談の機会を多く用いるようにしている。各々のその時の状況や気分で想いは変化しており、細かな相談や言葉掛けで知ろうとしている気持ちを伝え、また状況に応じ、実物で選択しやすくしたり、発想のヒントとなる写真や本チラシ等用いたり、読んだり書いたり、伝えやすい表出しやすい雰囲気や環境作りに心掛けている。また、引き出した要望に対しては実現へ向けて積極的に取り組み気持ちを分かち合えるようにしている。		
52	21 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の過ごし方に支障をおよぼさないよう、業務内容を見直し、時間分担、勤務者の役割自体を修正した。入居者各々に生活のペースがあり、その日の起床時間によって、食事時間、入浴時間など相談して決めることも多く、当日勤務者間で連携して、業務変更や休憩時間にも余裕を持ち、安全に個々のペースでの生活、ケアや関わりを持てるよう取り組み改善してきている。生活のリズムは定期的に(アセスメント時)変更や要望をセンター方式D-4シートで把握したり、ご本人やご家族と相談し、ケアプランにも立案している。業務変更が必要であれば、またスタッフ全体で相談して、業務見直しを行い希望に添った支援を継続していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出や行事前には訪問美容室を活用し、ご本人と相談して長さを決め、カットやブローをしたり衣類を選んでいる。また、以前からの日常の衣類習慣や好みで着ていた衣類の種類や色や柄、ベルトまで、ご本人らしさのある衣類やおしゃれ・整容の継続を大切に支援している。年々自身で整容や身だしなみを整えにくくなってきている。関心をこれからも持ち続けられるよう、折に触れ言葉かけをするなどケアプランにも立案し、職員からの意識的な言葉かけメイクや洋服選び等、機会を増やす等これらも引き続き取り組んでいく</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>ホワイトボードへ毎日の献立を記入し、メニューについて事前にお知らせし会話の中でも盛り込んで食事が楽しみになるような働きかけをしている。体調や気分にあわせ、ゴマすりや和え物、食後の片づけ等を出来るときにできる部分だけ、入居者職員で協力して実施している。また、体調や献立によっては、直前にメニュー内容を相談し、嗜好や要望にあわせて材料や主食メニュー事態を変更して別に用意し提供することもある。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>飲み物やおやつは好みや気分、体調に合うものを提供できるよう、様々種類多く用意し不定期ではあるが手作りをし楽しんでいただけるよう取り組んでいる。喫煙者には場所や喫煙方法を本人と相談の上決めており、安心して喫煙して頂けるよう取り組んでいる。</p>	
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄時間を24時間で把握できるよう、個人介護記録に排泄表を盛り込み時間を追って記入を徹底。関わりの中で職員間で事前排泄時間を必ず申し送り、個々のその日1日の排泄リズムに合わせたトイレ誘導や声掛け促しを行っている。また排泄環境自体の改善、ご本人の生活や状況に合わせ適した衣類やパット等への変更に取り組み、ご本人にとっても負担が少ないよう改善に取り組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
57	23	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
58		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	24	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
60		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には玄関先にベンチがあり外気浴やプランターのお花を見学したり、他階へ訪問したりと思いや状況に合わせて実施している。買い物等については可能な場合はすぐに対応しているが、時間や希望物によってはすぐには困難で、その場で相談して外出日を決め約束の日を実施している。	○	近所に歩いていけるお店があったが6月に閉店してしまい、徒歩での買い物の場がなくなってしまった。今後日常的な買い物の機会を継続できるよう、車を活用しスーパーへ行く支援を回数を増やして実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	夏季など暖かい時期にはフロアの行事として外出を行っている。外出の機会がある時は家族への報告、参加のお誘いを行うようにし家族との交流の場面もフロア(居室)以外でもできるようにしている。本人、家族の希望があれば家族との外出、外泊も行っている。外出行事に出かけられなかった方に対して、日程を別に設けて個別に対応し楽しんでいただいている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば要望にあわせホームの電話を使用し職員が掛けて取り次いでいる。ご家族からの手紙は居室に貼り何度も読み返せるようにしている方もいる。現在は、少しづつ字を書く機会をもてるような働きかけを行っており、七夕の短冊やお手紙、年賀状を出せる様に取り組んでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の家族、親戚、孫夫婦等、時間を設けずに居室、和室等落ち着いて過ごせる場所でそれぞれ過ごされ自由に面会に来られている。面会期間のあいている方には前もって体調や近況をお伝えしている。面会中も様子から必要時は短時間付添い会話のサポートをするなど、双方にゆっくり安心して良い面会時間が過ごせるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会で「身体拘束」について勉強会を開き、理解を深め、「絶対に行ってはならないこと」「介護者都合にしないこと」等、職員へ全体会議等を通じて伝達している。また、拘束することでどのような弊害があるのか、事例やニュース等を材料に管理者や主任から職員へ情報を伝えている。また職員のストレスについても抱え込まない、職場の雰囲気作りに努めている。管理者、一部の職員が「関連研修」に参加し研修報告をしている。事故対策委員会が身体拘束委員会を兼ねており、日頃の事故報告やヒヤリハット報告内容も検討し、日々のケアと照らし合わせ、定期的に勉強会を実施、スタッフへの周知に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66	26 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	エレベーターの使用について職員全体でアンケートを実施、結果をもとに全体会議で話し合い、現在は日中は解錠し自由に使用できる環境に改善されている。希望や必要時には24時間すぐに職員とエレベーターを使用できる状況ではあるが、夕方16時半から翌朝8時55分の夜間の時間は安全面防犯上からカギを使用し、安全を確保している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在の確認や様子を、介護記録用紙自体に記入欄を作り、24時間の生活の様子、どこでどのように過ごしていたのかを記入し、職員間で把握している。夜間は2時間おきの定時巡回のほか適宜安否や睡眠、姿勢の確認を行っている。夜間帯や入眠休息中更衣中の入居者にはそっと気づかれぬようできる範囲を見極めプライバシー、羞恥心の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意を要するものはその方によって違うため、個々にあわせて保管が必要なものはお預かりし見守りで使用していただいている。(ハサミ、ホチキスの針、化粧品、画鋏等)ご本人と相談のうえで実施している。ヒヤリハット報告で使用に注意が必要な場面が上がった場合はカンファレンスを行い、ご本人と相談のうえ取り決めをして安全な使用を継続できるように取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故に対する危険意識は事故対策委員会が常に啓発している。事故報告書では、状況から対応、反省や対策まで細かに記入し再発防止に努めている。又、事故に至らなかったケースでもヒヤリハット報告書を作成し、スタッフで当日や翌朝にカンファレンス。決定した対策は、すぐに対応へ取り組み、事故防止に努めている。		
70	○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	社内研修や厚別区GHで協同して、救命救急講習を研修に取り入れている。また、グループホームで起き易い急変、事故発生時をシミュレーションした「緊急時の対応」の研修も独自に行っている。職員も時間が経つと不安になりやすいため、今後も定期的に研修を取り入れ、継続して行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72		○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	誤嚥、むせ込みがある入居者は毎食後に居室での口腔ケアの徹底、義歯管理に介助が必要な場合は保管管理や洗浄等行っている。また、歯科の往診を週1回うけており、適宜相談や診察を受けられる体制にある。今後年数を重ねますます口腔機能についての観察や適切なケアが重要になっていくと考え、現在食事や嚥下、摂食口腔機能について知識向上のため勉強機会をもち、スタッフで学習に取り組んでいる。		
77	28 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事提供は胆のう炎の方には、油や脂肪を控えた食材と調理方法で食事提供を行い、個々の体調や要望、嗜好にも合わせて適宜代替えを提供できるように準備し実施している。日々の献立はスタッフが1日ごとに当番制でたてており、食事委員が1日トータルの配分や週単位でのバランスを確認する2重のチェック体制をとっている。栄養バランスが偏りがちであったり食事量が少ない方には捕食も用意し提供したり、ご家族が面会時に一緒に軽食やおやつを楽しまれたり、目の付く場所に好きな食べ物を用意しておき、食べたいときに食べたいものが摂取できるような環境(場所・ひと・物)を考えている。嚥下や摂食についての勉強会を行い各々の状態や力に合わせた食事摂取が美味しく食べていただけるよう、取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は手荒いうがいを徹底している。事故対策委員会が食中毒の発生時期にあわせ、消毒方法や感染経路等資料を作成し配布している。マニュアルはいつでも閲覧できるようにしており、流行の可能性のある時期季節には掲示物をして注意を呼び掛けたり、朝礼や申し送りに対処法をくり返し申しおくり、意識をもって取り組めるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫・冷凍庫を週に1回、掃除消毒し食材の管理をしている。まな板、包丁類は夜間帯に塩素消毒をおこなう。食材もできる限り前日に発注し新鮮な食材を使用している。おしぼりは使用前に熱湯で煮沸消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>冬季間は除雪を行い車のスペースや駐車場内の歩道の確保、夏季はプランターを駐車場にプランターやパラソル、ベンチやテーブル等を設置し明るい雰囲気を作っている。ホームの周りを畑にし入居者と一緒に収穫の楽しみ、近隣の人とのコミュニケーションの一つとなっている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に合わせた飾りや食べ物、音楽を用意し季節、行事を感じれるようにしている。食事中にはテレビを消し、静かな音楽をかけるなど対応、テレビでの番組や事故のニュース、不快な音が生活や精神面に大きく影響を及ぼすことから、細かな配慮を実施している。光は窓からの日差しが目には直接当たらないように配慮している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間はテーブルを囲んで椅子があるので一人になりづらいと思われる。和室はソファで仕切っているのでゆっくりテレビを見る等くつろげるスペースはできている。和室・居室・居間・台所・トイレと各々落ち着ける場所や時間があり、安全面に注意し、サポートしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には私物は好みの配色でカーテンやカーペットなどをそろえている。使い慣れたタンス、机などを置き使用。入居者の興味に合わせて写真、絵、手紙などを掲示しゆっくり読んだり、見たりすることができるようにしている。家具の変更など必要な物を購入するときはご本人・家族を交え相談し決定している。片付けが必要な時はご本人と一緒に رفتり相談したりして実施している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>夏季で天気の良い日は必ず換気を行い、居間にエアコンや加湿器設置して湿温計で状況を把握しながらの室温調整を行っている。エアコン使用時は、風が直接当たらないよう調整し、体に触れる等寒すぎないかの確認を行っている。冬季間は換気は誰もいない時間帯に短時間でもできるようにし暖房は集中コントロール制御で室温を確認できるようになっている、季節かかわらず居室へ細かに巡回し、空調室温状況も把握対応している。</p>		

(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの扉のあき方を入りやすいように変更修繕したり、視線の位置に貼り紙や目印、ゴミ箱やボックスティッシュを設置したりと、安全に自立した生活が送れるように都度ケアの見直しに連動し会議で話し合い改善に取り組んでいる。居間では供用のイスを用意使用しているので入居者の身長により不安定になることがあり、滑り止めや座布団を座面に敷いたり、背もたれにクッションを使用して安楽な姿勢で座れるように、どうしても体系に合わないかたには自宅で使用していた椅子を持参して頂き継続して使用していただいている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室には各々に合わせた表札を、風呂場やトイレも明記している。又、トイレの場所が分からないことがあるので、曲がり角や目線に目印を張っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関や周りにはプランターやベンチパラソルなどを設置し天気の良い日には日光浴や気分転換を楽しんでいただいている。外回りに畑にしているので種まきから収穫までを興味のある入居者と一緒に楽しんでいる。屋外の行事では、ホーム玄関と駐車場スペースを利用しBBQを実施、ご家族も参加され、毎年大変楽しみにされ喜ばれている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>ご自分のペースで暮らしやすいよう、各々と一緒に相談し、その思いについてフロア会議で職員間で話し合っており、気持ちよく落ち着いて暮らし続けられるよう取り組んでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>一緒にお茶を飲んだり居室や和室でコミュニケーションをとったりと一緒にゆったりと過ごせる場面がある。また、天気の良い日には外気浴に外のベンチへ行きゆったりと過ごせる。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>生活リズムを把握し、生活歴や習慣も含め各々にあった生活リズムを崩さないよう支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>ホーム理念にも『自分の力で生き生きと』とありスタッフは常に意識してケアにあっている。各担当スタッフと計画作成担当者でアセスメントシケアプランに立案、各々にあった活躍場面を増やし取り組みを行っている。ケアを提供している中で笑顔が増えている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>お誕生日には担当スタッフと行きたい場所を相談し出かけている。カラオケボックスやショッピング、外食等ご本人と一緒に外出、楽しい時間を過ごしていただいている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>医療連携体制をとり、看護師週2回出勤し直接かかわり体調管理を行っている。また24時間オンコール体制をとり不在時でも対応し処置や対応の指示、上申や受診等を行っている。また週2回の内科医往診のほか、歯科皮膚科の往診もある。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>日頃の生活の様子観察や会話コミュニケーションからニーズを引き出したり、要望時、その場で話し合い対応をしている。また、すぐ実現困難なことは、申し送り時やフロア会議で話し合い報告し一緒に取り組む姿勢をもち対応をしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>面会時には生活の様子等を近況報告、ご家族の体調や状況についてもお伺いし心配ごとや不安、ケアにたいする思いをお聴きしている。また、面会期間が開いているご家族には電話でも報告を行いお話をし関係を大事にしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>行事やボランティアでの訪問を受けることがあるが日常的にはなく、1ヶ月に1回程度。日本舞踊や音楽演奏、地域の小学生の訪問など様々で皆さん楽しみにされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くない</p>	2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。地域行事の町内会盆踊りや地域の子供やお年寄りとの流しそうめん、花植え作業等でもホームを理解して関わりを持っていただけようになり、今まで以上に交流が増えホームが地域に認知されてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の2/3くらいが</p> <p>③職員の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	日ごろから管理者職がスタッフに積極的に話しかけ悩みや相談に耳を傾けストレス軽減に努めている。また、入居者皆さんの笑顔や言葉に励まされ元気をいただき働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p> <p>③利用者の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	各々心身状況によってケアの内容や関わる時間に違いでるときもあるが、それを考慮した上でスタッフ同士連携をとり、皆さんにご満足いただけるよう日々取り組み努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の2/3くらいが</p> <p>③家族等の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>	面会時や電話連絡時、運営推進会議時にご家族の想いについて折に触れうかがっている。ケアプラン更新時には実施してきた期間の経過と生活のご様子を報告し説明を行っている。プランへの意向要望をうけて、プランへ反映している。今後より一層ニーズを引き出せそしたサービスの充実を図りご家族とご本人様が安心してホームをご利用いただけるよう、日々努力していきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 3丁目では、入居者様主体での歌謡曲の会を週1回開催している。運営にはスタッフはあくまでサポート役として参加し、運営方法や役割分担も入居者様と相談のうえ実施している。今後は歌謡曲の会に限らず、茶話会等、入居者様主体の気軽に集まれる催しにも発展させ、他のフロアからも参加をうけて交流機会として継続して取り組んでいきたい。